



2026年5月15日

各 位

会 社 名 ネットウェア株式会社  
代表者名 代表取締役社長 豊田 崇克  
(コード:4814 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役執行役員 渡邊 博和  
(TEL. 06-6281-9866)

**特別損失の計上及び通期連結業績予想と実績との差異  
並びに個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、2026年3月期において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、2025年5月15日に公表いたしました2026年3月期の連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、2026年3月期の個別業績と前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

1. 連結業績における特別損失の計上

(1) 投資有価証券評価損

当社が保有する投資有価証券について、取得価額に比べて実質価額が著しく下落しているため、投資有価証券評価損124百万円を特別損失として計上いたします。

(2) 減損損失

当社が保有する固定資産について、継続して営業損失を計上していることを踏まえ、将来の収益見通しを慎重に見直した結果、減損損失62百万円を特別損失として計上いたします。

2. 個別業績における特別損失の計上

(1) 投資有価証券評価損、関係会社株式評価損及び減損損失

上記「1. 連結業績における特別損失の計上」のとおり、個別財務諸表においても、投資有価証券評価損116百万円、関係会社株式評価損7百万円及び減損損失62百万円を特別損失として計上いたします。

(2) 貸倒引当金繰入額

当社の連結子会社に対する貸付金について、回収可能性を慎重に検討した結果、貸倒引当金繰入額106百万円を特別損失として計上いたします。

なお、当該貸倒引当金繰入額は個別決算のみに計上されるものであり、連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

### 3. 2026年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 3,000	百万円 30	百万円 30	百万円 10	円 銭 0.79
実績値（B）	2,875	△282	△268	△462	△36.40
増減額（B－A）	△124	△312	△298	△472	－
増減率（％）	△4.1	－	－	－	－
（参考）前期連結業績 （2025年3月期）	3,009	△75	△77	△105	△8.34

### 4. 差異が生じた理由

2026年3月期の売上高につきましては、ソリューション事業において、企業のIT投資がクラウド・次世代AI領域へシフトするなか、従来型システム開発の需要減少の影響を受けたことに加え、エンターテインメント事業において、2025年4月開催の大阪・関西万博関連イベントへの多数出演により高採算の自主公演数が減少したことや、全国巡業公演の公演期間・公演回数が都市圏公演に比べて相対的に短かったことなどにより、チケット販売が前年同期を下回り、売上高が減少いたしました。

また、損益面では、ソリューション事業において、次世代AI分野における技術力強化を目的として採用した2025年4月入社の新卒技術者30名に対する人材育成や、同分野の需要拡大を背景とした2026年4月入社予定の技術者採用活動を推進するとともに、新規次世代AIソリューション創出に係る試験研究費を計上したことなど、成長に向けた戦略的投資に伴う費用が増加いたしました。加えて、エンターテインメント事業において高採算の自主公演数が減少したことに加え、一部資産の評価見直しに伴う費用を売上原価に計上したことなども影響し、営業損失となりました。

加えて、上記「1. 連結業績における特別損失の計上」のとおり、投資有価証券評価損及び減損損失を計上しました。これらの結果、売上高及び利益は前回予想を下回りました。

当社は、今回の特別損失計上を今後の成長に向けた事業構造転換を進めるための重要な節目と位置付けております。従来事業については、収益性、成長性及び資本効率の観点から見直しを行い、旧来型の業務プロセスに依存する領域について整理・再編を進め、今後は次世代AI活用を中心とした事業構造へ転換することにより、収益性の改善と早期黒字回復を目指してまいります。

また、今回の特別損失計上は当期業績に一時的な影響を与えましたが、当該特別損失は既に保有している資産の評価見直しに伴うものであり、新たなキャッシュアウトを伴うものではありません。したがって、今後の資金繰りに直接的な影響を与えるものではありません。財務安全性の指標である自己資本比率は72.6%となり、引き続き高水準で推移しております。

5. 2026年3月期通期個別業績の前期実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値（A） （2025年3月期）	百万円 2,136	百万円 △79	百万円 27	百万円 3	円 銭 0.24
当期実績値（B） （2026年3月期）	2,014	△171	△156	△454	△35.79
増減額（B－A）	△122	△92	△183	△457	－
増減率（％）	△5.7	－	－	－	－

6. 差異が生じた理由

2026年3月期の売上高につきましては、従来型システム開発市場が次世代AIの登場により急速に縮小した影響を受け、前年同期比で減収となりました。

それに対応するために、事業基盤強化を目的とした開発体制への先行投資として、開発環境のクラウド基盤への移行や、開発生産性向上を目的とした取り組みを実施したことに加え、次世代AI分野の技術力強化に向けた人材の採用・育成、翌期入社予定者の採用活動の推進、並びに新規次世代AIソリューション創出に係る試験研究費の計上など、成長に向けた戦略的投資に伴う費用が増加したことから、営業損失となりました。

また、上記「2. 個別業績における特別損失の計上」のとおり、投資有価証券評価損、関係会社株式評価損、減損損失及び貸倒引当金繰入額を計上しました。これらの結果、売上高及び利益は前年実績値を下回りました。

7. 業績に与える影響

上記の内容につきましては、本日公表の「2026年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以上